

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選び、正確に記入すること。

1. 収入印紙 ¥30,000、郵便切手 ¥3,000を購入し、いずれも費用として処理していたが、決算日に収入印紙 ¥10,000、郵便切手 ¥820が未使用であることが判明したため、これらを貯蔵品勘定に振り替えることとした。
 2. 従業員にかかる健康保険料 ¥90,000を普通預金口座から納付した。このうち従業員負担分 ¥45,000は、社会保険料預り金からの支出であり、残額は会社負担分である。
 3. 以前注文をうけている商品 ¥3,000,000を引き渡し、受注したときに手付金として受け取っていた ¥600,000を差し引いた金額を掛けとした。また、先方負担の発送費 ¥20,000を現金で支払い、これを掛代金に含めることとした。
 4. 取引銀行から借り入れていた ¥2,000,000の支払期日が到来したため、元利合計を当座預金口座から返済した。なお、借入れにともなう利率は年 2.19 %であり、借入期間は150日であった。利息は1年を365日として日割計算する。
 5. オフィスのデスクセットを購入し、据付作業ののち、次の請求書を受け取り、代金は後日支払うこととした。

請求書			
日商株式会社 御中			
大門商事株式会社			
品 物	数量	単 價	金 額
オフィスデスクセット	1	¥ 2,000,000	¥ 2,000,000
配送料			¥ 30,000
据付費			¥ 100,000
		合 計	¥ 2,130,000

X8年11月30日までに合計額を下記口座へお振り込み下さい。
千代田銀行千代田支店 普通 7654321 ダイモンショウジ(カ)

第2問 (10点)

関甲信株式会社（決算年1回、3月31日）における次の取引にもとづいて、受取家賃勘定と前受家賃勘定の空欄①～⑤にあてはまる適切な語句または金額を答案用紙に記入しなさい。

X7年4月1日 前期決算日に物件Aに対する今年度4月から7月までの前受家賃を計上していたので、再振替仕訳を行った。1か月分の家賃は、￥100,000である。

X7年8月1日 物件Aに対する向こう半年分の家賃（8月から1月まで）が当座預金口座に振り込まれた。1か月分の家賃に変更はない。

X7年9月1日 物件Bに対する向こう1年分の家賃が当座預金口座に振り込まれた。この取引は新規で、1か月分の家賃は￥130,000である。

X8年2月1日 物件Aに対する向こう半年分の家賃（2月から7月まで）が当座預金口座に振り込まれた。今
回から1か月分の家賃は、￥110,000に値上げしている。

X8年3月31日 決算日を迎えて、前受家賃を計上した。

(①) 家 賀

第3問 (30点)

答案用紙のX7年10月31日の残高試算表と次の [X7年11月中の取引] にもとづいて、答案用紙の11月末の残高試算表を作成しなさい。

「X7年11月中の取引」

- 2日 商品 ¥ 800,000 を仕入れ、代金は掛けとした。

3日 先月の売上に関する請求書を得意先へ送付し、郵送代金 ¥ 500 を現金で支払った。

4日 収入印紙 ¥ 20,000 および郵便切手 ¥ 10,000 を現金で購入し、費用処理した。

5日 商品 ¥ 400,000 を売り上げ、代金は掛けとした。

6日 請求書を送付した得意先のうち1社より連絡があり、商品販売の契約を行ったが未販売であった
¥ 50,000 を先月に当社で売上処理していたことが判明した。そこで、同額の売上および掛代金を減らす
処理を行った。

7日 臨時で株主総会を開催し、繰越利益剰余金を次のとおり処分することが承認された。なお、株主配当金
はただちに普通預金口座から振り込んだ。

株主配当金：¥ 400,000 利益準備金の積立て：¥ 40,000

8日 売掛金 ¥ 400,000 について、当社の取引銀行を通じて電子記録債権の発生記録が行われたとの連絡を
受けた。

10日 所得税の源泉徴収額 ¥ 18,000 を普通預金口座から納付した。

12日 商品 ¥ 1,500,000 を売り上げ、代金は掛けとした。

15日 電子記録債権 ¥ 300,000 が決済され、同額が普通預金口座へ振り込まれた。

16日 貸付金の元本 ¥ 200,000 と利息 ¥ 5,000 の合計額が普通預金口座へ振り込まれた。

20日 従業員の給料 ¥ 400,000 を支給する際、所得税の源泉徴収額 ¥ 16,000 を差し引いた残額を普通預金
口座から振り込んだ。

22日 商品 ¥ 620,000 を仕入れ、代金は掛けとした。

25日 得意先から掛代金 ¥ 2,050,000 が普通預金口座へ振り込まれた。
／ 仕入先へ掛代金 ¥ 1,700,000 を普通預金口座から振り込んだ。

26日 普通預金口座から現金 ¥ 200,000 を引き出した。

28日 家賃 ¥ 150,000 および電話料金 ¥ 20,000 が普通預金口座から引き落とされた。

30日 法人税等の中間納付として ¥ 500,000 を普通預金口座から納付した。

第4問 (10点)

次の1月におけるA商品に関する【資料】にもとづいて、下記の間に答えなさい。なお、払出単価の決定方法として、移動平均法を用いるものとする。

解答は、すべて答案用紙に記入して必ず提出してください。

[資料]

1月1日	前月繰越	60個	@	¥ 1,000
10日	仕 入	240個	@	¥ 990
13日	売 上	250個	@	¥ 1,800
20日	仕 入	350個	@	¥ 960
27日	売 上	310個	@	¥ 1,750
29日	売上返品	27日に売り上げた商品のうち品違いのため10個返品	(受入欄に記入すること)	

問1 答案用紙の商品有高帳（A商品）を作成しなさい。なお、商品有高帳は締め切らなくて良い。

問2 1月のA商品の純売上高、売上原価および売上総利益を答えなさい。

第5問 (30点)

次の【決算整理事項等】にもとづいて、間に答えなさい。当期はX7年4月1日からX8年3月31日までの1年間である。

[決算整理事項等]

- ① 売掛金 ¥150,000が普通預金口座に振り込まれていたが、この記帳がまだ行われていない。
- ② 仮払金は全額、2月26日に支払った備品購入に係るものである。この備品は3月1日に納品され、同日から使用しているが、この記帳がまだ行われていない。
- ③ 現金過不足の原因を調査したところ、旅費交通費 ¥2,800の記帳漏れが判明したが、残額は原因不明のため雑損または雑益で処理する。
- ④ 当座預金勘定の貸方残高全額を当座借越勘定に振り替える。なお、当社は取引銀行との間に ¥1,000,000を借越限度額とする当座借越契約を締結している。
- ⑤ 売掛金の期末残高に対して2%の貸倒引当金を差額補充法で設定する。
- ⑥ 期末商品棚卸高は ¥568,000である。売上原価は「仕入」の行で計算する。
- ⑦ 建物および備品について、以下の要領で定額法による減価償却を行う。3月1日から使用している備品（上記②参照）についても同様に減価償却を行うが、減価償却費は月割計算する。
建物：残存価額ゼロ 耐用年数30年
備品：残存価額ゼロ 耐用年数5年
- ⑧ 借入金のうち ¥1,200,000は、期間1年間、利率年3%、利息は元本返済時に1年分を支払う条件で、当期の12月1日に借り入れたものである。したがって、当期にすでに発生している利息を月割で計上する。
- ⑨ 保険料の前払分 ¥30,000を計上する。

問1 答案用紙の精算表を完成しなさい。

問2 決算整理後の建物の帳簿価額を答えなさい。

3級

2019年度

第153回簿記検定試験 問題用紙

午前9時開始 制限時間 2時間

(2019年11月17日(日)施行)

日本商工会議所

各地商工会議所

受験者への注意事項

1. 答案用紙は、持ち帰りできませんので必ず提出してください。持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
2. 答えは、定められたところに、誤字・脱字のないよう、ていねいに書いてください。
3. 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンシルを使用してください。